保育から教育へ なめらかな接続

～大山きゃらぼく保育園で教員の研修～

長期社会体験研修を終えて

大山西小学校
河上　芳弘

子育て王国鳥取県の中で、もっとも子育てに力を入れ、環境を整えている大山町！

大山町では、7年前から小学校教員が、校区の保育所で1年間の研修を積み、幼児教育をしっかりと理解して学校教育につなげることに取り組んでいます。

昨年の長期社会体験研修では、大山西小学校の河上先生に大山きゃらぼく保育園で一年間研修をしていただきました。研修を終えた感想をご紹介します。

▲めざせゴール！！竹馬スタート

全国的に小1プロブレム（小学校に入学したばかりの小学校1年生が集団行動をとれない、授業中に座っていられない、話を聞かないなどの状態が数か月継続する状態）が注目されてきている昨今、この研修は、私で6人目となります。昨年の4月から今年の3月末まで大山町立大山きゃらぼく保育園で1年間、幼児教育から学校教育へのなめらかな接続をテーマにして、年長児を中心に保育の体験をさせていただきました。

保育園は各家庭と連携しながら人としてのベースを形成する役割を担う大切な場！

子どもは、みんな生まれながらに、多様な可能性を秘めています。幼児期は、その可能性を育成開花させるために、とても大切な時期です。また、同時期に脳の発達の大部分が出来上がってしまうそうです。「幼児教育は、親の教育である」とよく言われています。

「将来に向けた夢」「自主性・独創性・集中力」「幸福感・達成感」を育てていく大切な時期でもあります。

そこで、保育園では、家庭と連携を深めながら、子ども一人ひとりの多様な可能性を開花させるべく、環境を整備し、活動の場を設定して健やかな成長を援助しています。

保育士は、保育指針や大山町子どもの教育プログラムに基づき、園全体で子ども一人ひとりに対して、細やかなめあてをたてて援助しています。

この1年間で学んだことを、4月からの大山西小学校での教育に還元していきたいと考えています。

名和公民館子どもカルチャー教室

『第2回 凧といっしょにあそばいや！』

3月10日（日）、名和農業者トレーニングセンターで、児童23人と保護者6人、支援ボランティア9人が参加し、凧づくりと凧揚げを行いました。

今回、挑戦したのは「連凧」です。「失敗してもいいから全て自分で作る」を目標に凧づくりをスタートしました。

本体になるビニールを、カッターで凧の型に合せて切ることの難しさや、1本の竹ひごからたて骨とよこ骨を作ることの大変さを失敗しながら学びました。

凧ができると、いよいよ外で凧揚げです。さまざまなイラストやメッセージ入りのカラフルな連凧80枚が、風を受け大空に舞い上がると、子どもたちはもちろん大人からも「わぁ～すごい！」と感嘆の声があがりました。

▶竹ひごを火であぶりながら曲げます

▲連凧あげに挑戦　ぐんぐん空高くあがれ！